

J P法株価分析システムには、個別銘柄の株価データをテキストファイル（CSV形式）へ保存する機能が備わっています。

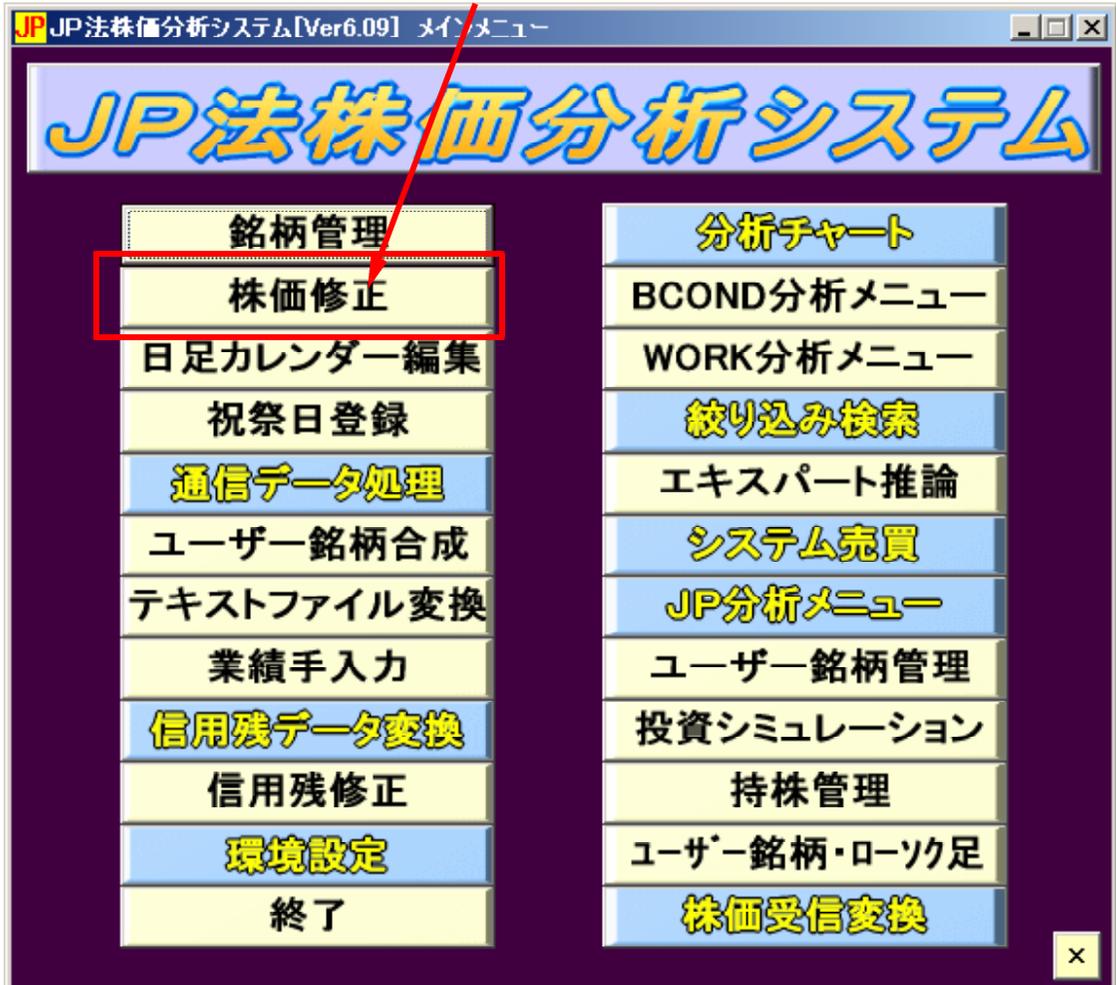
この機能を使うことによって、E X C E L など他ソフトへの取り込みが可能です。今回は、その手順を解説します。

大きく分けると、ソフトから株価データを取り出し保存する第一段階、E X C E L から株価データを表示させる第二段階の2つに分かれます。

第一段階

J P法ソフトから株価データを取り出し保存する

メインメニューから「株価修正」をクリックします。



次の画面が表示されます。



銘柄コード番号の入力項目に、カーソルがピコピコと点滅していますので、表示させたい銘柄コードを入力し、「読込」をクリックします。

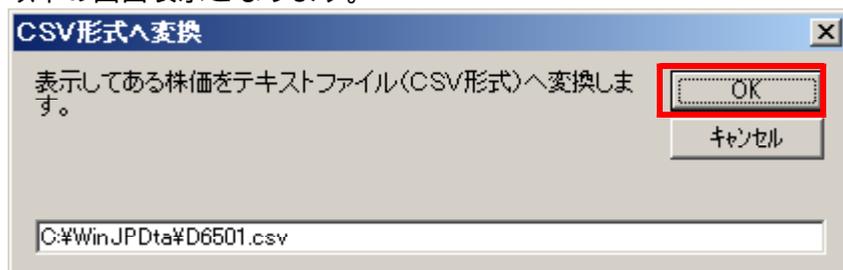


例．6501日立の場合
以下のようにデータが表示されます。

日付	始値	高値	安値	終値	出来高	権利落
2006/12/26	723	723	712	719	5757	0
2006/12/27	719	729	715	726	6808	0
2006/12/28	724	730	723	730	5992	0
2006/12/29	731	747	729	742	12114	0
2007/01/04	754	795	753	787	60656	0
2007/01/05	796	815	789	795	95083	0
2007/01/09	796	816	792	808	49506	0
2007/01/10	802	808	785	791	27683	0
2007/01/11	795	799	773	780	27725	0
2007/01/12	789	801	779	790	27381	0
2007/01/15	0	0	0	0	0	0
2007/01/16	0	0	0	0	0	0
2007/01/17	0	0	0	0	0	0
2007/01/18	0	0	0	0	0	0
2007/01/19	0	0	0	0	0	0
2007/01/22	0	0	0	0	0	0
2007/01/23	0	0	0	0	0	0

次に「CSV」をクリックします。

以下の画面表示となります。



この画面では、株価データの保存先を入力します。
何というフォルダの何という名前でも保存するか聞いています。

初期値は、[C:\WinJPDta]フォルダ中に[D6501.csv]という名前で保存するという設定です。

通常は、このままで構いませんので、「OK」をクリックしてください。

画面が消え、株価修正の画面表示となります。

これで、株価データの保存は終わりです。

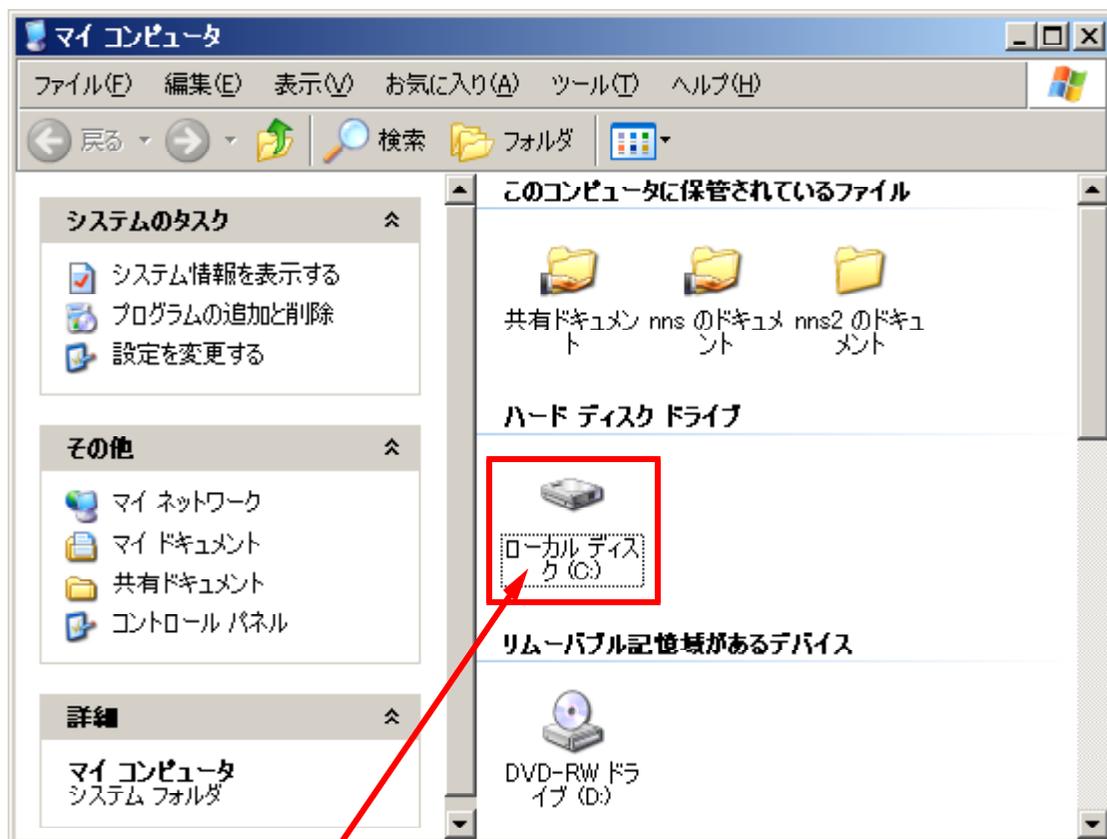
「株価修正」の画面、JP法ソフトの「メインメニュー」の画面を閉じます。

第二段階

E X C E L から株価データを表示させる

[C:\¥WinJPDta] フォルダの中身を見ます。

色々方法はありますが、例えば、
デスクトップにあるマイコンピュータをダブルクリック、



ローカルディスクをダブルクリック

たくさんフォルダが表示されます。

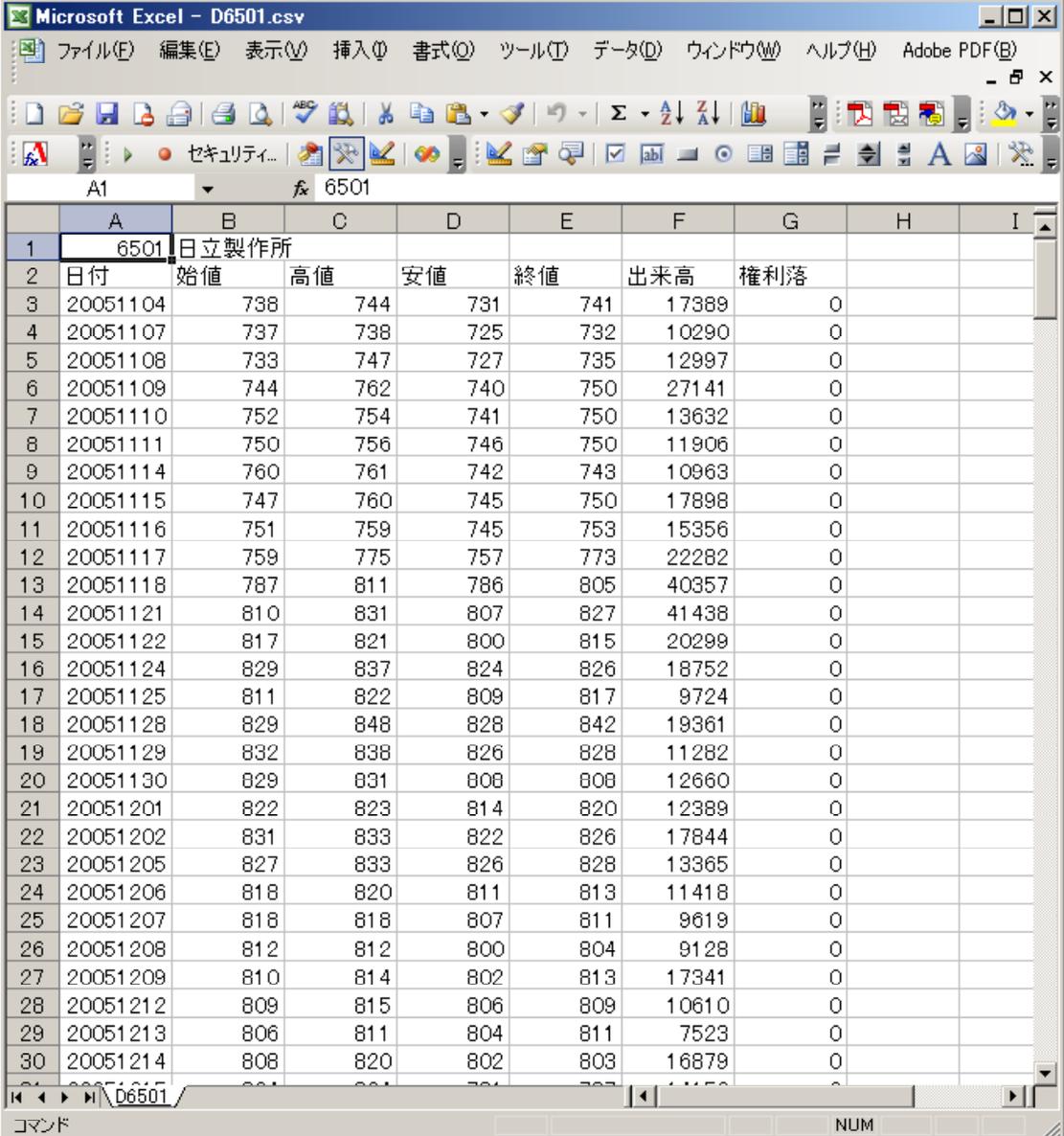
この中から、[WinJPDta] を見つけてダブルクリックします。



[WinJPDta] フォルダの中身が表示されます。

この中から、[D6501.csv] を見つけダブルクリックします。

以下のように表示されます。株価データが表示されました。



	A	B	C	D	E	F	G	H	I
1	6501	日立製作所							
2	日付	始値	高値	安値	終値	出来高	権利落		
3	20051104	738	744	731	741	17389	0		
4	20051107	737	738	725	732	10290	0		
5	20051108	733	747	727	735	12997	0		
6	20051109	744	762	740	750	27141	0		
7	20051110	752	754	741	750	13632	0		
8	20051111	750	756	746	750	11906	0		
9	20051114	760	761	742	743	10963	0		
10	20051115	747	760	745	750	17898	0		
11	20051116	751	759	745	753	15356	0		
12	20051117	759	775	757	773	22282	0		
13	20051118	787	811	786	805	40357	0		
14	20051121	810	831	807	827	41438	0		
15	20051122	817	821	800	815	20299	0		
16	20051124	829	837	824	826	18752	0		
17	20051125	811	822	809	817	9724	0		
18	20051128	829	848	828	842	19361	0		
19	20051129	832	838	826	828	11282	0		
20	20051130	829	831	808	808	12660	0		
21	20051201	822	823	814	820	12389	0		
22	20051202	831	833	822	826	17844	0		
23	20051205	827	833	826	828	13365	0		
24	20051206	818	820	811	813	11418	0		
25	20051207	818	818	807	811	9619	0		
26	20051208	812	812	800	804	9128	0		
27	20051209	810	814	802	813	17341	0		
28	20051212	809	815	806	809	10610	0		
29	20051213	806	811	804	811	7523	0		
30	20051214	808	820	802	803	16879	0		

X Pの初期値は、通常CSVファイルはEXCELと関連付けられていますので、上記のようになります。

このようにならない場合は、先にEXCELを起動し、
[C:\WinJPDta]フォルダ中の[D6501.csv]を開いてください。

会報で解説して欲しいソフトの操作方法などがありましたらご連絡下さい。
順次、会報または弊社ホームページの「ソフト利用事例集」で紹介していきたいと思
います。